

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：11302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720166

研究課題名（和文） 近世武家社会における名前に関する基礎的研究

研究課題名（英文） The Fundamental Research on Samurai Names in the Early Modern Period

研究代表者 堀田 幸義 (HOTTA YUKIYOSHI)  
宮城教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20436182

研究成果の概要（和文）：本研究の成果としては、(1) 名前に関する新たな史料を発掘し整理することができたこと、(2) さまざまな藩の名前に関する法令の存在を明らかにすることによって、仙台藩に見られたような法による人名統制という問題が単なる個別藩レベルに止まらない近世社会全体の特質であることを確認できたこと、(3) 列島各地における具体的な人名の把握に努めることにより、名前をめぐる慣行の地域差が浮き彫りになったこと、(4) 近世の武士身分が置かれた社会的な状況の変化について、名前、身なり、供連など、身分を表象する事柄を切り口に描き出すことができたこと、(5) 本研究を通して新しい研究テーマが見つかったことの5点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：The following are the results of this study;

- (1) To have newly discovered historical materials relating to names of people and organized them
- (2) To have brought to light the existence of laws and regulations relating to names in various *Han* and have confirmed that the problem of statutory control of personal names, which was seen in *Sendai Han*, was not only involved in the aspect of individual *Han* but was the characteristics of the society of the early Modern period
- (3) To have highlighted regional differences of customs relating to personal names through exerting effort to comprehend specific names in many places around Japan
- (4) To have depicted the changes of the social circumstances which *samurai* of this period was in from the angle of things such as names, clothes, and taking servants around, which tell the statuses of them
- (5) To have found a new subject of study.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史 武家 名前

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は名前をめぐる問題から近世社会の特質を描き出そうとするものであるが、従来、「名前」は本格的な研究対象とはされて来なかったテーマであり、研究開始当初は、近世武家の「名」を素材に歴史像を提示しようという研究は皆無に近い現状であった。そもそも歴史学自体が近隣諸学に比べ名前研究が遅れていると言われており、日本においていち早く研究を開始したのは法律学・宗教学・民俗学などであった。

また、日本史学においても名前を構成する要素のうち姓氏・苗字部分については比較的古くから注目されているのに対し「名」部分の研究は極めて少なく、名前を取り上げた研究と言えば、日本中世史あるいは日本法制史の専門家の研究であり、日本近世史を専門とする研究者の間では名前が研究の対象とさえなっていないといった感があった。

そこで、こうした研究史的空白を埋め、かつ、今後、近隣諸学との学際的研究を行っていくためにも歴史学の立場から名前研究を行う意義は十分にあると考え、名前関係史料の発掘・整理という基礎的作業から研究をスタートさせた。

### 2. 研究の目的

筆者の研究の全体構想は、近世社会におけるヒエラルヒー再生産の回路・秩序維持の装置について考察し、社会経済史的なアプローチからだけでは見えてこない支配の実像に迫るといったものであり、これまで近世武家社会を対象に身分格式をめぐる問題や儀礼をめぐる問題、そして、名前をめぐる問題を通してその実相を探ろうとしてきた。

本研究は、自身の研究テーマのうち名前に関する研究をより一層発展させることを目的としており、その理由は研究開始当初の名前研究をめぐる学術的背景にあり、また、筆者自身が名前研究の将来性に強く期待していたためでもある。

### 3. 研究の方法

筆者は、これまで、仙台藩伊達家を主たる対象に、禁字をめぐる問題、官途・受領名をめぐる問題、呼び名をめぐる問題といった3つの観点から名前研究を進めており、その過程において同藩の名前政策や近世社会の名前文化に関する様々な史料を発掘・収集してきた。

本研究では、仙台藩に見られるような名前についての諸法令や関連史料を全国規模で確認するという基礎的な作業を行ってきた。具体的には、日本列島を「北海道・東北」、「関東」、「北陸・甲信越」、「東海」、「近畿」、「中国・四国」、「九州・沖縄」の計7つの地域に分け、各自治体史の資料編に収められている近世史料や刊行されている法令集・正史などから名前関係記事を抜き出し、それを分類・整理し、各藩や幕府などが実施した名前規制の有無とその概要把握に努めてきた。

### 4. 研究成果

本研究の研究成果については、以下のよう

にまとめられる。  
(1) まずは、名前に関する新たな史料自体を発掘し整理することができたことが挙げられる。これまでに目を通した自治体史等の刊行資料集は掲載されている史料の数や種類・内容に藩ごと地域ごとのばらつきが見られ、上記7つのブロック全てについて十分な調査を終えているとは言い難いが、それでも106の藩領、13の幕府領、9の旗本領について調査することができ、その結果、先に挙げた3つの研究テーマである、禁字をめぐる問題、官途・受領名をめぐる問題、呼び名をめぐる問題それぞれについて、多くの関連史料を発見することができた。

(2) また、史料を博捜し、さまざまな藩の名前に関する法令の存在を明らかにすることによって、仙台藩に見られたような法による人名統制という問題が単なる個別藩レベルに止まらない近世社会全体の特徴であることを確認できたことも貴重な成果である。研究開始当初から予想はしていたが、それを裏付ける形となった。

(3) ただし、列島各地域の状況が仙台藩と全く同様であったわけではなく、諸大名家の分限帳や検地帳・人別帳を通覧し列島各地における具体的な人名の把握に努めた結果、名前をめぐる慣行の地域差が浮き彫りになった。例えば、17世紀前半までの仙台藩で見られたような官途・受領名に代表される武士的な名の広がりや、少なくとも現在の東北～北関東にあたる地域に広く見られたことが本研究を通してわかってきたが、意外にも藩士たちの名および領民たちの名に官途・受領名や下司なしの省名・寮名・国名がほとんど見られない藩もあることが判明し、さらに、近世初頭の仙台藩領でも近江領では国名を名乗る百姓が見られないとの指摘もあり、近世

以前の状況を含めて検討する必要がある。

(4) 名前に関する史料を博搜する過程で、武士たちの行列・供連についての史料や諸藩の無礼禁止令に関する史料など、本研究に直結するわけではないが筆者の研究の全体構想に関わる史料をも入手することができたことも幸運であった。その結果、近世の武士身分が置かれた社会的な状況の変化について、名前、身なり、供連など、身分を表象する事柄を切り口に描き出すことができた。

(5) 最後に、本研究を通して新しい研究テーマが見つかったことも貴重な成果である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ①堀田幸義、「武士の嗜み、武士の威厳 その三」、『宮城教育大学紀要』、査読なし、第 46 巻、2012、pp.265-284
- ②堀田幸義、「武士の嗜み、武士の威厳 その二」、『東北学院大学経済学論集』、査読なし、第 177 巻、2011、pp. 363-388

[図書] (計 1 件)

- ①堀田幸義、「武士の嗜み、武士の威厳」、安達宏昭・河西晃祐編『講座 東北の歴史』、第 1 巻、清文堂出版、近刊、査読なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

堀田 幸義 (HOTTA YUKIYOSHI)  
宮城教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：20436182